

平成28年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	英語教師の専門的知識に関する研究		
プロジェクト期間	平成28年度		
申請代表者 (所属講座等)	宮迫 靖静 (英語教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	なし
取組方法・取組 実績の概要	<p>英語教師の専門的知識に関する研究を実施するにあたって、まず、専門知識及び卓越したパフォーマンス研究に関する文献概観から始めた。計画的練習という概念に着目し、これを英語教育及び英語教員養成には応用できないか考察した。その結果、計画的練習の原則を反映する準計画的練習が英語教育及び英語教員養成に寄与する可能性が見て取れた。</p> <p>続いて、この可能性を吟味するために調査を計画したが、これまで英語教員養成よりも広範な調査研究がなされてきた英語教育から調査を始めることとし、英語の達人の英語学習における準計画的練習の有無及び実態に関する調査に着手した。その資料を分析し、事項にあるような結果が示された。</p>		
研究成果の 概要	<p>我が国の英語の達人の学習法における準計画的練習の有無及び実態を量・質的に分析した結果、主に次の三点が示された。</p> <p>(a) 英語の達人の英語学習においては、準計画的練習が相当な割合で行われている可能性がある。</p> <p>(b) 英語の達人の英語学習においては、目的活動に直接係る下位部門スキル練習が大部分を占める。</p> <p>(c) 英語の達人の英語学習法においては、第二言語集習得研究の知見に沿うものが見られる。</p> <p>これまで、英語学習に関して、専門知識及び卓越したパフォーマンス研究の視点からメスが入られたことはなく、英語学習に計画的練習が無縁ではないことが示されたのは、成果である。また、英語教育は、達人ではない一般の学習者を対象とするものだが、知見 (b), (c) は、一般の学習者にも該当する内容である。さらに、計画的練習は学習者の自律 (autonomy) を求め、メタ認知に長けた学習者でなければ実施が難しい点があるが、計画的練習の原則に基づく準計画的練習は、Fcs (focus=集中), Fb (feedback=フィードバック), Fx (fix=修正) の3Fsが揃うことが必要条件なので、一般の学習者に対する授業の中で比較的簡単に指導に使うことができる。従って、この準計画的練習を英語教育の改善に活かしていくべきであろう。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [ <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。]			
外部資金獲得 申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 (題目を変更して提出)	研究成果の 公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (国内) : 日本教科教育学会 <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input type="checkbox"/> その他 :